



私の なんとか しなきゃ!

Vol. 46

PROFILE

1977年大阪府出身。仙台育英学園高等学校サッカー部のMFとして活躍。卒業後は、ブランメル仙台(現ベガルタ仙台)、ジェフユナイテッド市原(現ジェフユナイテッド市原・千葉)、サンフレッチェ広島でプレー。2014年元旦の天皇杯決勝で現役を引退し、株式会社ベアフットを設立。サンフレッチェ広島×なんとかしなきゃ!プロジェクト国際親善大使。

2014FIFAワールドカップのSAMURAI BLUEの初戦を日本中が心待ちにしていたころ、私はブラジルではなく、対戦相手のコートジボワールに向かっていました。今回の日本戦で初めて、この国の名前を知った人もいるかもしれません。

アフリカのサッカー強豪国には国際的な舞台上で活躍している選手も多く、彼らの並外れた身体能力には驚かされます。しかし、地元の人たちの多くは家にテレビがなく、そんな“憧れのヒーロー”の試合を観ることができないというのです。そこで今回のワールドカップでは、JICAがソニー株式会社の協力を得てコートジボワールでパブリックビューイングを企画し、縁あって参加させていただくことになりました。

僕にとっては初めてのアフリカ。現地に着いて数時間後には、日本対コートジボワールの試合が始まりました。大きなスクリーンを前に、ドログバ選手が途中出場した時には歓声が上がりました。残念ながら日本は負けてしまいましたが、みんなが「お疲れさま」と声を掛けてく



れて、心が温かくなりました。数日後のコロンビア戦もパブリックビューイングが行われたのですが、この時は子どもから大人まで約1,000人が集まり、会場が一体となって自国のチームを応援している姿は感動的でした。

コートジボワールでは、長年の内戦を経て、まさに今、新しい国づくりが進められています。日本の戦後もそうだったと思いますが、国の基盤をつくることはそう簡単ではないでしょう。そんな中、国際協力の現場を案内して下さった日本人専門家の方々は想像を超える困難に直面しているはずですが、それを一切見せずにどうすればこの国が持続的に成長できるかを必死に考えていて、日本人として誇りに思いました。

地元の子どものためのサッカーの練習にも参加させてもらったのですが、みんな本当に元気でたくましいですね。プレースタイルはとにかく全力でパワフル。ちょっと転んでも、泣く子なんて一人もいませんでした。

聞くと、彼らは毎日何時間も歩いて水

たくましく生きる人々

中島 浩司

元プロサッカー選手

NAKAJIMA Koji

くみをしたり、弟や妹の面倒を見たりと、どんなに小さくても、家族の一員としての役割があるそうです。自分でもその責任を感じながら、日々を懸命に生きているのだと思いました。そんなたくましさを、日本の子どもたちにも感じてほしいですね。

人生の大部分をささげてきたサッカーがきっかけで、コートジボワールの現実の一部を自分の目で確かめることができました。開発途上国が直面するさまざまな課題に対して、現地の方々と懸命に汗を流している日本人の存在を知り、もっと多くの人に彼らの取り組みと途上国の現実を知ってほしいと思いました。平和都市・広島を拠点に、僕自身も行動を起こしていきたいと思っています。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

なんとかしなきゃ で 検索